



東海第二原発適合性審査および運転延長申請に関する説明会始まる

初日は、2月3日東海文化センター大会議室で行われました。参加者は、村民だけでなくひたちなか、大洗、日立などからもあり、原電に「聞きたい」、「言いたい」と普段感じている方がたくさんいることがわかります。

住民の参加は約120名くらいだったかと思います。原電の出席者は、取締役：東海事業所本部長の村部さ

ん、副所長でS.54年入社 運転；電気設備の保守に携わってきた仲田さん、地域共生部 部長代理の高島さん、安全管理室長の市毛さんの4人でした。

質疑応答では、安全対策の期間・費用・お金の出どころ、東海村周辺の首長が再稼働に同意しない時はどうする？ 原電職員の構成は？、再稼働なのか、別の選択肢があったのではないかと、燃料有効長頂部の位置データの食い違いについて、燃料棒の数は？、自己資金が500円程度と聞くと、実際はいくらあるのか、ケーブルの交換できない場所と交換比率について。「ケーブルの専門家」とする方が、ケーブルの寿命は30～40年だが20年延長して大丈夫なのか、などでした。

原電の回答のなかから要点のみですがいくつかお知らせします。

安全対策工事に関して・・・期間は概ね3年程度。費用は1800億円を自己資金と借入れで。

職員の構成・・・発電所員300名弱。協力会社1千人程度。(定期検査では2千～3千人) 事前検討会と一緒にやり合意形成を計っている。新規の会社職員には入所時に教育してから入構させている。

TAF(燃料有効長頂部)位置データの食い違い・・・製作メーカーと設計メーカーで違いがあった。設計メーカーの数字(3708mm)が正しい。

ケーブルの安全性・・・ケーブルは、1箇所にケーブルが集中するところや建屋に穴を開けなければならないところは防火シートで覆う。これが約2割。工事後は5割が難燃性。工事の途中、設備が出来上がったとき規制委の検査官による検査がある。10年ごとに劣化の評価をしている。防火シートでくるんであったところでも、再度開いてやり直すことができる。

「まだ動かん・・・」 運転手ら疲労

福井・石川結ぶ国道



福井県と石川県を結ぶ国道8号で、7日も続いた車両の立ち往生。車内に泊まるしかなかった人が多く、運転手らには「まだ動かないのか・・・」と疲労がにじみます。深い雪に覆われた国道沿いでは、店を開放するなど助け合う姿も見られました。福井県坂井市とあわら市では、6日早朝から渋滞が続きます。国道近くにある喫茶店の男性(70)は「見渡す限りトラックの列。1台も動けていない」と話します。トラックは運転席まで雪に埋もれ、車の間にも雪が積もります。諦めた様子で寝ている人の姿が目立ちます。

石川県加賀市でも、運転手らがトラックの雪を下ろしながら過ごしました。立ち往生は6日朝から続きますが、7日昼には少しずつ動き始めました。